

# 成田 小五郎(なりた・こごろう)

## 1、プロフィール

歌人。歌誌「青森アララギ」を創刊、代表者。昭和9年よりアララギ会員として活躍。県内歌人との交流も広く県短歌大会、県外歌壇の選者として青森県歌壇を指導した。

<生没>

1913(大正2)年 11月7日～2007(平成19)年2月15日

<代表作>

歌集『分身』(昭和59年)『道端の草』(平成13年)『素描』(平成8年)小史『青森アララギ小史』ほか

<青森との関わり>

青森市荒川上野に生れる。県庁職員として青森、栃木、岩手、山形、新潟、神奈川の各県に勤務。

## 2、作家解説

成田小五郎は、大正2年11月7日青森市荒川上野に生れた。

昭和6年9月より10年4月まで安方町大岡魚網般具店員、10年5月より33年3月まで県庁職員として青森県庁、栃木県庁に勤務。33年3月より49年2月までは社会保険診療報酬支払基金幹事長として岩手、山形、新潟、神奈川の各県に勤務、定年退職した。この間歌壇においては、昭和6年森山孤蘭、桜井夢村らにより創刊の鱒ヶ沢の歌誌「和船」に田代二郎名で出詠。8年船水公明、工藤金次郎らにより創刊の青森の歌誌「樹氷」に田代二郎名で出詠。8年坂本富美男、杉山灯影、野沢峰洋らによる詩歌誌「芸苑」に田代二郎名で参加。8年より11年まで横山武夫主宰の「羅漢柏」会員。9年アララギ会員。11年8月近藤、西谷、福川、五林平、小川、花田、石岡の8名で青森アララギ会を創立。13年新万葉集に3首。14年田中敏之と歌誌「素描」を発行。17年歌誌「青森アララギ」を創刊。22年青

森県歌人協会の設立に参加。24年大山仙遊らの「未耕地」に参加。24年扇畑忠雄らの東北アララギ会「群山」に発起人として参加。24年松丘保養園の白樺短歌会の歌会に出席し、同会と青森アララギ会の交流が始まる。28年から30年までと、51年から平成7年まで、東奥日報社主催県短歌大会の選者を担当。61年青森アララギ会創立50周年記念、合同歌集『五十年』発行。平成8年青森アララギ会創立60周年記念、合同歌集『六十年』発行。平成6年より7年間「毎日新聞」県歌壇の選をする。9年アララギの解散に伴い、新アララギに参加。平成5年青森アララギ会が県芸術文化報奨受賞。8年青森県文芸大会50周年記念式典感謝状受賞。9年県芸術文化振興功労賞受賞。ハンセン病事業への表彰(財団法人藤楓会)。

代表作

幻にきゆることなし蔦青き聖アンデレ教会の堂(「分身」より)

この墓の友にも告げむ吾等の青春そのものなりしアララギの終りを

(「道端の草」より)

### 3、資料紹介

○歌集『分身』

図書

1984(昭和59)年7月

188mm×127mm

第1歌集。昭和20年から50年までの短歌647首を収める。「昭和10年頃から小川、花田、石岡の三君と(あしびき歌会)と称して、赤煉瓦の聖アンデレ教会の処の小川宅や拙宅で歌会を開いた。いわば歌に対する青春の日の情熱であり、神の御恵みであった」世界が詠われている。